

プロフィール

< 2022年版・核弾頭データ追跡チーム > (順不同)

梅林 宏道 (うめばやし・ひろみち)

1937年生まれ。東京大学大学院博士課程修了。工学博士。1980年、大学教員を辞し、平和運動家・研究者として国際的に活動、NPO 法人ピースデポを設立、現在は特別顧問。RECNAの初代センター長(2012~15年)。

湯浅 一郎 (ゆあさ・いちろう)

NPO 法人ピースデポ代表。1949年東京都生まれ。1975年、東北大学大学院理学研究科修士課程修了。元産業技術総合研究所中国センター研究員。専門は海洋物理学。理学博士。著書に「海の放射能汚染」(緑風出版)、「平和都市ヒロシマを問う」(技術と人間)など。

冨塚 明 (とみづか あきら)

長崎大学 水産・環境科学総合研究科 准教授
専門は環境物理学。博士(環境科学)。被爆者問題、核兵器、原子力発電、安全保障などの課題に取り組んでいる。

鈴木 達治郎 (すずき たつじろう)

RECNA 副センター長。1951年生まれ。75年東京大学工学部原子力工学科卒。78年マサチューセッツ工科大学プログラム修士修了。工学博士(東京大学)。2010年1月より2014年3月まで内閣府原子力委員会委員長代理を務めた。核兵器と戦争の根絶を目指す科学者集団バグウォッシュ会議評議員として活動を続けている。

中村 桂子 (なかむら・けいこ)

RECNA 准教授。2012年4月のRECNA開設にともない、長崎大学に赴任。2012年3月までは特定非営利活動法人ピースデポの事務局長。近著に「核のある世界とこれからを考えるガイドブック」(2020年、法律文化社)。

< 協力 >

コンペル・ラドミール

長崎大学 多文化社会学部 准教授
チェコスロヴァキア生まれ育ち。横浜国立大学博士課程修了(国際経済法学博士)。同大学研究教員、日本大学、法政大学非常勤講師を経て2013年より現職。専門は比較政治学。日米関係、日本政治外交史、沖縄戦後史について研究。長崎からのメッセージに関心を持っている。